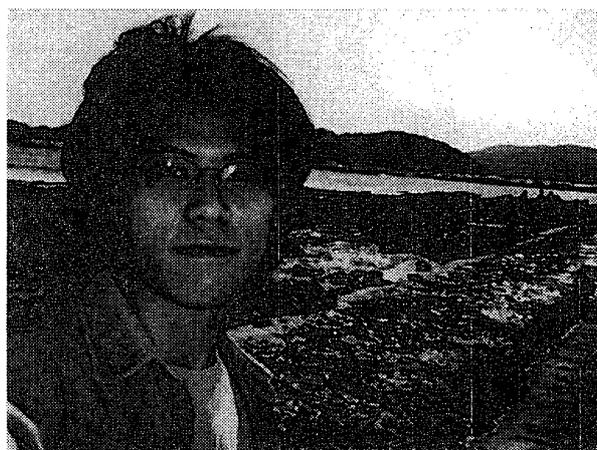


## 中串孝志<sup>1</sup>

みなさんこんにちは、中串孝志(なかくしたかし)です。この春に学位を取得し、長い間過ごした京大理宇宙物理学教室に別れを告げ、日本学術振興会特別研究員(PD)として京都大学大学院人間・環境学研究科環境相関研究専攻地球環境動態論講座(な、長い...)に机を構えています。ようやく学割のきかない身分になることができ、晴れて身内にも顔向けできるようになりました。いや～、長い道のりだった(笑)

さて、私の専門とは申しますと、日本では既に絶滅危惧種扱いでもある火星の地上観測屋として細々と研究活動を続けております。対象はいろいろ考えられますが、大学院に入学してからという短い期間でやれたことは、火星北半球夏季の気候・気象の特徴である低緯度氷晶雲帯の研究です(学位論文はObservational studies of the Martian low-latitude cloud beltです。詳しくは本号掲載の拙稿を御参照下さい)。今年はダストストームの期待される時期南半球夏季)に相当する大接近がありますし、何とかいい仕事をGets!したいものです。将来的には、「エアロゾルによる散乱について」というように、他の惑星に対しても応用ができるように、理解を深めていきたいと考えています。

近年アメリカを中心としてどんどん探査機が打ち上げられています。我が日本にも「のぞみ」があります。ところがこれが私の心配の種なのです。別に「探査機が行ったから地上観測は...」ということではなく、「もうのぞみが終わったから次は他のことをしよう」とばかりに、プロジェクト後に今の火星熱が冷え切ってしまうことです。月についても、「人間が行っちゃったからもうサイエンスは終わり」と不遇の時代を迎えたと聞きます。現時点でも金星プロジェクトが活発化してきていますが、それだけでなく、今のうちから(他の惑星は当然として)火星の次のプロジェクトをも考えて行かなければならない、と強く思います。また、このような姿勢が、天文学でも地球科学でもない新たな領域「惑星科学」を発展させてい



く上で重要ではないかと考えています。

ところで、景気の一向に良くならない昨今ではありますが、そんな中、「無駄遣いしてるヤツはいったい誰だ?」という風潮を受け、様々な形で(多くは触れません)、様々な(科学者集団の)業界の責任を問われているのは皆さん良くご存じの通りであります。では科学者の責任とは一体何ぞや?と問われた場合、読者の皆さんはどのようにお答えになるでしょうか。俗っぽい言い方ですが、「新聞の一面を飾るような」「ノーベル賞級の」「最前線を切り拓く」研究をすることとお考えでしょうか。もちろんそうであるに越したことはありません。私もできることならそういった、小さくても歴史に名を残すような研究を...できれば残ったその名前は少しでも大きめに...したいものです。しかし、世間一般、少なくとも国公立系機関にとっては「債権者」に当たる皆さんに言わせれば、もちろん先述のそれもあるでしょうが、こと周りの「娑婆の人たち」を見渡せば、きっと世の中の(惑星の話題の中の)何がどうなっていて何が分かっている?何が分からなくて、そしてあなたは何をしているの?ということが知りたいのではないかと思います。「債権者」的には、「債務者」が何をしているのか知りたいのは当然でしょう。医学界で先んじて定着した「説明責任」「アカウンタビリティ」の考えとも通じるものがあるかもしれません。従って、21世紀を生き抜こうとする科学者の重要な技能・資質とし

<sup>1</sup> 日本学術振興会特別研究員(PD)  
京都大学大学院 人間・環境学研究科

て、「一般人に知識を還元する能力」が要求されると強く思います。

私が研究者を志した一つの「動機」は、まさにその「知りたい」という単純な一般人的欲求でした。私が「何で研究者なんかやってんの?」(この「なんか」がポイントです)と問われた時、よく言うのが「昔、小さい頃から、クイズ番組が好きで、あの『あ、あ、あの、それ、あ、知ってる知ってる、えーと何やったかなあ、あの...えーとほら、...んもう、先に言うなや答えを!』ってあったでしょ?あのもどかしい思いと答えが自力でわかったときの快感、アレですよ」というものです。クイズ番組を見ていると知的好奇心の高まりを感じませんか? わかりにくくてすみません。とにかく私の場合は、自分の研究を他人に話す時には、この感覚を大切にして、そしてそこに至るまでの苦労や「これがわかったからナットクした」という感覚を大切にして話すようにしています。

「娯楽の感覚」というのは、研究者業界の中だけに埋没していると、どんどん失われていきます。これは読者の多くも納得して頂けるでしょう。従ってこの「娯楽の感覚」を失わないためには、やはり外部との接触を絶やさないことが重要だと思います。アルバイトでも合コンでも何でもいいです。趣味も大切です。「研究が趣味」と言う方々もおられますが、それではあまりに寂しい。そして趣味を通じて色々な方面に「人的シナプス」が形成されていきます。私の場合は例えば音楽です。「くしおバンド(仮)」というインストゥルメンタルのバンドでサクソとウインドシンセ(吹くシンセサイザー)、それから作編曲を担当しています。おかげで「星と音楽の」インターネット番組に火星研究者として出演させて頂き、生放送中にプロのジャズボーカリストとセッションするなどという幸運にも恵まれました(え...?ハイそうです、ちょっと自慢でした。失礼しました)。

これからも娯楽の感覚を忘れずに、「象牙の塔」を打ち壊しながら、研究に邁進して行きたいと思えます。知った風な偉そうなことを書き連ねましたが、お

気を悪くありませんように.... そして今後とも、皆様宜しく御願ひ申し上げます。